

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

知多市まち・ひと・しごと創生推進計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

愛知県知多市

3 地域再生計画の区域

愛知県知多市の全域

4 地域再生計画の目標

本市の人口推計を行ったところ、2060年の推計人口は約67,000人で、2015年の人口84,617人と比較すると約2割の減少が見込まれる。

年齢構成別人口の推移をみると2060年には本市全体の34.0%が老年人口（65歳以上）となり、2010年の20.6%から10ポイント以上増加する推計となっている。

本市の住民基本台帳から自然増減の推移をみると1970年代には「団塊ジュニア世代」の誕生により大幅な自然増となったものの、その後、緩やかに出生数が減少しつつ死亡数が上昇し、2013年に初めて出生数が死亡数を下回り自然減となり、2018年は出生数655人、死亡数754人であり、自然減99人となっている。

また、社会増減の推移については、1994年に転入数の急減により初めて転出超過となったものの、その後の土地区画整理事業による宅地開発などに伴い転入数は増加し、転入超過、転出超過と変動したが、2009年以降は、継続的に転出超過を示し、2018年は転入数2,691人、転出数2,914人で223人の転出超過となっており、社会減の状態が継続している。

これらのことから、本市は自然減と社会減が重なり減少傾向にあることが分かる。

今後、このような状況の継続に伴い、老年人口の増加による扶助費の増加や市税収入の減少が見込まれるとともに、これまで地域活動の中心を担っていた団塊の世代の高齢化により、地域づくりを支える担い手の確保が困難となることが想定される。

これらの課題に対応するために、次の項目を本計画期間における基本目標として掲げ、本市の人口減少は避けられないものとして受け止めた上で、その克服を図るため、様々な対策に取り組んでいく。あわせて、人口減少に転じたこの機を、人と人とのつながりを強め、市民の暮らしの質を高めるチャンスと捉え、活発な市民活動やお互いに助け合う温かい人柄などの「知多市らしさ」を活かして、新しいまちづくりを進めていく。

引き続き「知多市人口ビジョン」で掲げた将来展望である 2060 年に人口 70,000 人程度を確保することをめざして、各種施策に取り組む。

なお、人口減少、地域経済規模縮小の克服は、本市のまちづくりにとって重要な課題であることから、「知多市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を市の最上位計画である「第6次知多市総合計画」の重点戦略等と一体化して位置付け、全市的に取り組んでいくこととしている。

- ・基本目標 1 ひとづくり
- ・基本目標 2 あんしんづくり
- ・基本目標 3 にぎわいづくり

【数値目標】

5-2の ①に掲げ る事業	K P I	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2029年度)	達成に寄与する 地方版総合戦略 の基本目標
ア	保育園・幼稚園等の待機児童数	0人	0人	基本目標 1
	放課後児童クラブの待機児童数	0人	0人	
	子どもが地域や家庭で安心して育てられていると思う市民の割合	74.8%	75.0%	
	学校が楽しいと感じている児童・生徒の割合（小6／中3）	87.3%／ 80.3%	95.0%／ 95.0%	

将来の夢や目標を持っている児童・生徒の割合（小6／中3）	85.9%／ 65.7%	90.0%／ 90.0%	
地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを活かして、保護者や地域の人との協働による活動を行った学校の数（小学校／中学校）	7校／2校	10校／5校	
児童・生徒が適切な環境のもとで学習していると思う市民の割合	75.7%	75.9%	
自治会、町内会への加入率（施策の推進により、低下を抑制）	70.1%	70.0%	
地域活動やボランティア活動に参加している市民の割合	27.2%	27.4%	
コミュニティ、町内会、自治会などの地域活動が活発に行われていると思う市民の割合	66.5%	66.7%	
青少年が地域の行事やボランティア活動に参加していると思う市民の割合	29.5%	29.7%	
まちづくりセンター、公民館利用者数	164,065人	175,000人	
歴史民俗博物館の来館者数	21,767人	24,000人	
図書館の貸出冊数	536,880冊	603,000冊	
サークル活動や習いごとなど、文化活動、生涯学習活動に取り組んでいる市民の割合	28.0%	28.2%	

	市の審議会などの委員への女性登用率	26.6%	26.8%	
	コミュニティ役員の女性登用率	14.5%	14.7%	
	性別、年齢、障がいの有無などにかかわらず、誰もが暮らしやすいまちになっていると思う市民の割合	50.2%	50.4%	
	外国人が暮らしやすいまちになっていると思う市民の割合	39.9%	40.1%	
イ	地域交流サロン開設か所数	40か所	70か所	基本目標 2
	認知症サポーターの人数	6,564人	12,000人	
	普段の生活の中で助け合える地域になっていると思う市民の割合	61.1%	61.3%	
	高齢者がいきがいを持ち、安心して暮らしていると思う市民の割合	54.2%	54.4%	
	身近なところで相談でき、支えてもらえる福祉の制度・活動があると思う市民の割合	51.5%	51.7%	
	障がい者サービスが整っていると思う市民の割合	46.2%	46.4%	
	コミュニティ交通の1便当たりの利用者数	11人	15人	
	地域交通（バスなど）により市内の移動が便利であると思う市民の割合	22.0%	22.2%	
	住宅耐震化率	80.9%	95.0%	
	交通事故発生件数	1,825件	1,740件	
	刑法犯認知件数	342件	340件	

	日頃から家庭で地震や風水害などへの備えをしている市民の割合	43.0%	43.2%	
	行政や地域の防災対策により、安心して暮らしていると思う市民の割合	65.6%	65.8%	
	消防・救急体制が充実していると思う市民の割合	83.1%	83.3%	
	65歳以上の高齢者が要介護認定を受けている割合 (施策の推進により、増加を抑制)	11.0%	15.0%以内	
	国民健康保険被保険者 1 人 当たり医療費	県内市町村 平均医療費 のプラス 1%以内	県内市町村 平均医療費 のプラス 1%以内	
	週 1 回以上運動やスポーツ に取り組んでいる市民の割合	64.6%	64.8%	
	健康診査やがん検診を定期的 に受けている市民の割合	78.8%	79.0%	
ウ	市内に買物や外食で利用したい店があると思う市民の割合	40.6%	40.8%	基本目標 3
	駅周辺が機能的で利用しやすいと思う市民の割合	15.3%	15.5%	
	市内で働く市民の割合	35.7%	36.3%	
	市内の企業や商店に活力があると思う市民の割合	17.7%	17.9%	
	仕事と仕事以外の時間との バランス（ワーク・ライフ・ バランス）がとれている市民 の割合	62.1%	62.3%	
	社会動態数	▲223 人	▲221人	

	子育て世帯の純移動数	▲232 人	▲230人	
	知多市の自然、公園、家の周辺などの「まちの緑」に満足している市民の割合	69.5%	69.7%	
	知多市でこれからも暮らし続けたいと思っている市民の割合	82.4%	82.6%	
	創業件数	19 件	30件	
	夢や目標、新しいことに向かってチャレンジしている市民の割合	36.9%	37.1%	
	観光入込客数	927, 233 人	1, 000, 000人	
	観光として魅力ある場所やイベントがあると思う市民の割合	20.0%	20.2%	

5 地域再生を図るために行う事業

5－1 全体の概要

5－2のとおり。

5－2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例（内閣府）：【A2007】

① 事業の名称

知多市まち・ひと・しごと創生推進事業

ア ひとづくり事業

イ あんしんづくり事業

ウ にぎわいづくり事業

② 事業の内容

ア ひとづくり事業

子育て世帯から定住するまちとして選ばれるよう、子育てしやすい環境を整備する事業。

安心して子どもを産み育てることができるよう、切れ目のない子育て支援体制を整備し、地域全体で子どもと子育て家庭を支え、未来を担う子どもを育む事業。

子どもたちが多様性を認め合い、よりよい社会や人生を切り拓く力を育むことができるよう、学習活動、スポーツ、文化芸術など様々なことに関心を持ち、取り組むことができる環境を整備する事業。

学校、家庭、地域が連携して子どもたちの学びを支え、確かな学力と、豊かな人間性・社会性を育む質の高い教育環境を整備する事業。

地域活動やボランティア活動、コミュニティビジネスなど、本市の生活環境や魅力を高める様々な活動を活性化させる事業。

市民がまちづくりを自分のこととして捉え、自主的にまちづくり活動に参加していく機運を醸成するとともに、地域活動やボランティア活動を支援し、市民力を活かしたまちづくりを進める事業。

生涯を通じて文化芸術に親しみ、学びを楽しむことができる環境を整備する事業。

趣味や学習、就労のための学び直しなど、市民の自己実現意欲が高まり、多様な学びが行われ、さらには、その成果が発揮、披露されることで、学びの楽しさを広く市民に定着させる事業。

性別や年齢、国籍、障がいの有無にかかわらず、また、様々な価値観の違いによるところなく、誰もが自分らしく暮らすことができる地域社会を形成する事業。

属性や価値観の違いを理解し、互いに認め合える意識を育む事業。

【具体的な事業】

- ・多様なニーズに対応した幼児教育・保育の提供
- ・地域課題に取り組むNPOの立ち上げやボランティア活動の場づくりなどの支援 等

イ あんしんづくり事業

人と人とがつながり、互いに支え合うことで、住み慣れた地域で安心して暮らすことができる地域共生社会の仕組みをつくる事業。

支援を必要とする人に対して、互助、共助、公助による多様な支え合いが行われる地域を形成する事業。

誰一人社会から孤立せず、身近なところで相談でき、適切な支援を受けられる体制を整備する事業。

市民一人ひとりが地域社会の一員として活躍するとともに、自立した暮らしを営むことができるように、支援体制の構築を進める事業。

高齢者の運転免許証自主返納の増加、若者の自動車離れ、自動運転技術の開発など、公共交通を取り巻く環境が転換期を迎えていることから、車を運転しなくても安心して生活できるよう、市民の移動ニーズやこれからのまちづくりを考慮し、持続可能な地域公共交通ネットワークの形成を図る事業。

南海トラフ地震を始め、集中豪雨などの自然災害による被害を最小限に抑えるとともに、速やかに復旧できる体制を整える事業。

犯罪や交通事故が発生しにくい地域づくりを進める事業。

人生100年時代において、長きにわたって心身共に健康に暮らすことができるように、また、医療費の上昇を抑制できるように、健康寿命の延伸に向けて取り組む事業。

高齢者だけでなく、すべての世代の市民が自分に合ったスポーツや健康づくりに関心をもち、活動できる環境を整備する事業。

【具体的な事業】

- ・効率的で利便性の高い地域公共交通ネットワークの構築
- ・新たなスポーツ施設の整備など、スポーツを楽しむ環境の充実 等

ウ にぎわいづくり事業

公共空間をデザインすることにより暮らしの利便性を高めるとともに、市民が集い、交流するにぎわいの拠点を創出する事業。

鉄道駅周辺の魅力づくりを進め、特に朝倉駅周辺については、商業施設や公共施設の整備を効果的に活用し、市民による交流を促進するとと

もに、消費活動の利便性を高める事業。

市内に新たな雇用を創出することで、市民の就労の選択肢を増やす事業。

自然と調和し操業環境の良好な新しい工業用地を整備し、成長産業の企業誘致を進める事業。

緑と花に囲まれ、ゆったりと落ち着いて暮らせる魅力ある住環境を形成することで、とりわけ子育て世帯の定住を促進する事業。

土地区画整理事業による宅地供給量を増やすとともに、市民と行政が連携して公園緑地の維持管理や緑化の推進する事業。

空家のリノベーションなど、市民の様々なライフスタイルに応じた多様な住宅の選択肢を提供する事業。

若者の夢や目標に向けたチャレンジを応援するとともに、創業を支援する事業。

創業に対する市民の学びの機会を提供するとともに、多様なキャリアを持つ市内外の人たちの交流を促進し、新たなチャレンジを生み出す機運を醸成する事業。

市内で観光やイベントを楽しめるよう、観光資源の磨き上げを行い、交流人口の増加を図る事業。

訪日外国人を含めた市外からの観光客に対するおもてなし力を高めるとともに、市民自身が知多市のまちを楽しむことで、まちに対する愛着を高めていく事業。

【具体的な事業】

- ・朝倉駅周辺をにぎわいの交流拠点とするための整備
- ・観光客のおもてなし環境の整備 等

※ なお、詳細は、第6次知多市総合計画（「知多市まち・ひと・しごと創生総合戦略」が包含され重点戦略として記載）のとおり。

③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4の【数値目標】に同じ。

④ 寄附の金額の目安

1,750,000 千円（2020 年度～2029 年度累計）

⑤ 事業の評価の方法（PDCAサイクル）

毎年度 7 月頃に、有識者による効果検証を総合計画の進行管理と一体的に実施し、翌年度の取組方針を決定する。検証後速やかに知多市公式ホームページ上で公表する。

⑥ 事業実施期間

地域再生計画の認定の日から 2030 年 3 月 31 日まで

6 計画期間

地域再生計画の認定の日から 2030 年 3 月 31 日まで